

平成25年度 久留米市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画協議会

第1回 議事要旨

開催日時：平成25年11月26日（火）18：30～20：00

会 場：久留米市庁舎 2階 くるみホール

出席委員：日高委員 長澤委員 杉本委員 小玉委員 吉田委員 今里委員 柴田委員  
中島委員 加藤委員 西田委員 濱本委員 梅野委員 縄崎委員 岩坂委員  
伊藤委員 諸藤委員 四ヶ所委員 下川委員 猪口委員

欠席委員：4名

傍 聴 者：なし

■次第

I 会長挨拶

II 変更委員の紹介・委嘱状交付

III 報 告

1 第5期計画の進捗状況について・・・・・・・・・・資料1，2

2 高齢者実態調査及び介護保険事業者実態調査の実施について  
・・・・・・・・資料3-1，3-2，3-3，3-4

IV そ の 他

V 閉 会

(議事要旨)

発 言 者	発 言 主 旨
事務局	◎開会
事務局	報告 1 について、資料 1, 2 にて報告。
A 委員	高齢者の権利擁護について、虐待の講演会は非常に良いと思うが、虐待を行っている人達は講演会にこないだろう。実際虐待を行った人に注意を促すことも大事だと思うがどうか。 (意見) 出前講座について、もっと PR しても良いと思う。 (意見) 市民後見人の養成について、カリキュラムは大変だったが、非常に良い勉強になった。
事務局	高齢者虐待については、まだ市民全体の意識が低いと感じている。どのようなことが虐待にあたるのか、そういった基礎的部分、また、こういったことが虐待に繋がるといった啓発的な要素を含めたところで講演会を開催している。
B 委員	市民後見人の養成カリキュラムについて決まりはあるのか。 また、応募の状況はどうか。
事務局	カリキュラムについては、厚生労働省が標準カリキュラムを示しているが、どの程度準拠するかは各自治体の判断となっている。久留米市では中身を充実させているところ。後見活動は、重い責任を負っていただく部分もあるので、しっかりとした知識を習得していただきたいとの観点からカリキュラムを組んでいる。 応募状況は、昨年度は 35 名定員のところ 60 名近くの応募があり、定員を 50 名まで増やして実施した。42 名が修了し、29 名が登録していただいている。今年度は定員 50 名で、1 月から実施予定、現在募集中である。
C 委員	権利擁護、虐待について、関係機関との連携・協力が課題とあるが、関係機関とは具体的にどこか。 また、施設から自宅へ戻った方への見守り体制はどうしているのか。

発 言 者	発 言 主 旨
事務局	<p>一番関わっていただくのはケアマネジャーや民生委員、また、サービス事業者、かかりつけ医等と主に関わっている。場合によっては警察などとも連携している。</p> <p>施設から自宅へ戻る場合には、市と包括支援センターが連携して見守りをしている。また、身近な民生委員とも連携して見守りを行っている。</p>
D委員	<p>認知症高齢者とその家族への支援について、今年から行っている「くるめ元気脳教室」の参加者の選定方法及びこの事業の内容はどのようなものか。</p>
事務局	<p>参加者の募集は、65歳以上で認知症が気になる方や民生委員からの紹介などで募集を行った。100名定員に対し、当初88名の参加があった。事業の内容は、(株)くもんの教材を用いた学習療法に加え、ごげんよか体操やレクリエーション等を行っている。</p>
E委員	<p>(感想)「くるめ元気脳教室」の参加者から感想を聞いたところ、「簡単な問題や体操で、脳トレになることや元気になれることがしみじみとわかった。また、参加したい」との声を聞いた。</p>
F委員	<p>久留米市に、新サービスである訪問看護ステーションが4つできているが、他自治体ではなかなか整備が進んでいない状況も聞いている。サービスの評判はどうか。</p>
事務局	<p>4箇所は全国的に見ても多い状況である。利用者についても、定員25名に対し、10月時点での数字だが、1箇所の4名以外は22名、14名、11名とある程度のサービス提供はできていると考えている。</p> <p>久留米市の特徴として、小規模多機能居宅介護事業所が32箇所と多く、それが上手くいっているということで、他自治体からの問い合わせが聞いている状況。</p>
E委員	<p>給付適正化について、介護レセプトと医療レセプトの整合性のチェックとあるが、どのようにして確認して、どのように適正化するのか。</p>
事務局	<p>国保連で介護と医療のレセプトの整合の確認を行う。具体的には、入院日数と施設での在所要日数の確認。両方の合計日数が月の日数を超えたも</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>のをデータでリストアップしている。その後施設への確認を行い過誤調整等行っているところ。</p>
E 委員	<p>在宅系はまだか。</p>
事務局	<p>今は、入院日数と在所日数で対応している。</p>
G 委員	<p>認知症サポーター養成について、目標値に対してどうだったのか。大学生の認知症の関心が低い、また、高齢者との接点が少ないというところもある。小学校へ拡大して啓発したことは非常に良かったと思っている。今後どういった啓発をしていくのか。 授業に入れてもらうことが効果的だと思うが。</p>
事務局	<p>昨年から小学校でのサポーター養成講座を実施している。小さい頃からの認知症に対する理解が大事と考えている。今後も進めていきたい。 また、家庭での話題ともなると考えている。なお、中学校、高校の授業のカリキュラムに取り入れてもらうことは難しいと考えているが、なるべくたくさんさんの学校、そして、地域に認知症サポーター養成講座を実施していきたい。 認知症サポーターの実績としては、目標値6,000人に対し6,300人を超えている状況。</p>
A 委員	<p>予防給付に関する法改正が言われており、居宅介護事業所等が不安に思っているところもある。久留米市として、予防給付も新たな制度のフォローアップもしっかりやっていくといってもらわないと、不安はなくなると思うがどうか。</p>
事務局	<p>今の要支援者へのサービスが低下しないことが大前提。国の情報を収集しながら、今の制度を低下させないように検討していきたい。</p>
事務局	<p>報告2について、資料3-1、3-2、3-3、3-4で報告。</p>

発 言 者	発 言 内 容
E 委員	高齢者実態調査は字が小さい。事業所はちょうどよいが。備考欄はいら ないのでは。
事務局	備考欄については、資料として掲載しており、実際の調査票には記載す る予定はない。実態調査の字の大きさについても、資料の都合上この大 きさになっているが、調査票は、もう少し大きいもので作成していき たいと考えている。
H 委員	介護保険事業者調査の間 13. 研修について、口腔ケアの研修を行って いるかを追加してほしい。
I 委員	無作為の 6 千人の調査で全体の把握ができるのか。
事務局	統計学から見た場合、6 千人のサンプル調査で把握できると考えている。
I 委員	調査の費用は国の補助対象にならないのか。
事務局	国の地域支援事業の費用に入れても良いとなっている。
E 委員	施設の方も入るのか。
事務局	施設入所者は対象からはずすようにしている。 ただ、住民票を異動していない方は把握できないので、やむを得ないと 考えている。
C 委員	設問に施設入所を含めない理由は。
事務局	対象者については、他市の状況を確認し、より有効になるように検討し ていきたい。
事務局	次回の協議会の予定についてのお知らせ。  ◎閉会